

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東神楽町・東川町子ども発達支援センターおひさま		
○保護者評価実施期間	令和8年1月8日		～ 令和8年1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年1月8日		～ 令和8年1月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の強みは、子ども一人ひとりの特性に合わせた多様なプログラムを提供し、柔軟に対応している。子どもの状態やペースに寄り添い、最適な支援を行えるよう努めている。	マンツーマンで対応することにより、子どものその時の状態に合わせた療育ができる環境を整えている。	子ども一人ひとりの興味や課題・特性に合わせた、療育をさらに充実させていく。
2	利用者から非常に高い満足度の評価をいただいている。	職員のさらなる資質向上のため、研修を行い利用されているお子さんへ還元できるよう取り組んでいる。	内部研修のほか、外部研修にも参加し様々な療育の手法や、知見を習得する。
3	理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士の医療職を招聘し、多職種で支援を行うことで、多角的な視点での、評価・支援を提供することができる。	各療法士が情報共有することで、支援内容の見直しを各専門性の意見を踏まえて行うことができる。	今後も職員同士で情報共有を行いながら、より良い療育に繋げていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児が年々増加しており、迅速な通所につながることが困難。	非正規職員が多く、アセスメントの属人化(正規職員のみ)により、新規通所のプロセスに遅れが生じがちになる。	非正規職員の中でも経験豊富な職員との役割の分担を行うことを検討する
2			
3			